

令和6年度 第1回瑞浪市市之瀬廣太記念美術館協議会 会議録

日 時：令和6年6月26日（水）11時～12時

会 場：瑞浪市役所 4階会議室

出席者 <協議会委員> 小栗 茂 （学識経験のある者）
島村 節男（学識経験のある者）
柴田 増三（社会教育関係者）
加納 礼爾（学校教育関係者）
早川 美幸（家庭教育の向上に資する活動を行う者）
<事務局> 水野 光二（市長）・水野 義康（館長）
安藤 佑介・河野 和弘

1 委嘱状交付

市長より委嘱状を交付した。

2 あいさつ

市長より開会の挨拶がなされた（内容は省略）。

3 会長選出

瑞浪市市之瀬廣太記念美術館の設置及び管理に関する条例第11条第6項の規定により、柴田委員が会長を務めることとなった。

4 報告事項

令和5年度事業報告について、特に質問や意見等はなかった。

有賀正季氏の陶彫作品1点を購入し、ガラス絵1点の寄贈を受けたことを事務局より補足説明した。

5 協議事項

令和6年度事業計画について

1）普及活動の充実

・①企画展の開催

委 員：国際陶磁器フェスティバルに合わせ、陶磁器のワークショップを行うべきではないか。

事務局：今後検討していきたい。

委 員：既存のブロンズ作品は撤去せずに残してもよいと思う。陶器作品のみでは、市之瀬氏を彫刻家ではなく陶芸家と誤解する人がいるかもしれない。両方展示して、パネルでブロンズ作品と陶器作品を比較した解説を載せることができるとよい。

事務局：ご意見を参考にして、レイアウトを再考する。

委員：彫刻作品の中にも展示していない作品があるのではないかと。陶器作品は小さな作品であるため、彫刻作品を展示するスペースは十分に取れると思う。型を制作しブロンズ化した作品等の点検も行い、未公開の彫刻作品はこの機会に展示すべきと考える。

事務局：ご意見を参考にして、未公開の彫刻作品を展示できるか検討する。

委員：国際陶磁器フェスティバルの共通券は適用されるのか。

事務局：フェスティバルの開催事務局に確認する。

委員：子ども達や学校との連携を加えていければよいと考える。今年2月に陶磁資料館で実施した明世小学校との展示学習のように、今後子ども達の作品を美術館でも展示できるか検討してほしい。子ども達や学校との連携は、新博物館ができた際の館活動にもつながる。

事務局：ご意見を参考にして、明世小学校と何か共同でできることを考えていきたい。

・②講座の開催

委員：講座の対象者はだれか。

事務局：大人も小人も対象だが彫刻の場合、ある程度彫刻できる技術が必要になるため、小学生以上を対象としている。

委員：いずれの講座も瑞浪市の特色が出た良い内容と考えるが、6月や7月のように来館者が少ない月にも何か手を打つべきではないか。毎月講座を行う等、工夫していただきたい。

事務局：夏休みの作品制作として子ども達が集まりやすいため、やはり夏には講座を開催したい。夏休み以外の時期に実施できる講座については、次回の協議会までに内容を検討する。次年度予算の作成時期を考慮し早めにスケジュールを組んでいく。

委員：ワークシートを用いた講座等を行ってもよいと思う。また以前は、彫刻作品のギャラリートークや展示作品の模写大会を実施したことがあった。

事務局：ご意見を参考にして検討する。

6 報告事項

文化施設の再編について

委員：新博物館を現在の収蔵容量で建設しては、今後収蔵品を増やせない。建設の際には、今後も増えていく収蔵品に対応できる容量をどのように確保すべきか専門家に意見をうかがうべきである。展示だけでなく、収蔵容量のことも考えて再編に向けて動いてほしい。

事務局：収蔵容量確保といった課題も含め、しっかりとした方向性を決めるため

にも基本構想策定にじっくり時間をかけていきたい。何をするにも基本構想が重要となるため、今後は基本構想策定にかかる予算の獲得にむけて努力していく。なお、新博物館建設の有識者会議は多くの専門家で構成される予定であり、本協議会委員の中からも選出したいと考えている。

委員：増加する収蔵品にしっかり対応できる容量が保障されることは、新博物館の建設の前提と考える。また寄贈を受け入れる基準等もしっかり整備しないといけない。中途半端な統合とならないようしっかりと検討してほしい。

事務局：承知した。